御坊由来記・旧御坊村誌

御坊旧由来記

旧村誌

明治四年辛未三月十八日

南陽日高郡御坊由来旧記

御坊村
庄屋許

此の一冊は辛未三月御坊村
諸役御免の儀取調可達旨
被仰出候二付旧記相調ヘ差
出候控書也

紀伊国日高郡の御坊は人王百六代後奈良院の御宇湯川政岸直光公の御建立也。其故は享禄元年（一五二八年）戊子細川と四國の三好宗衆河内の國にて合戰に及ける時　細川少勢にて湯川直光公へ加勢頼ければ直光公御同心まし満し軍勢を催し河内の國へ趣巫ふ　然るに細川の少勢度々三好の勢にかけ立られルを　かなしミ巫ひ　本願寺證如上人へ此旨かくと被仰遣加勢御頼あり　則證如上人より大和河内へ御書を差添給ひしかば　両國の御門徒　我も〳〵と湯川直光公へ随順いたし　湯川の軍勢多勢二成　粉骨を尽ス登いへ共　細川の不運にや数日を經ずして　終に三好に敗せられければ　湯川直光公本意なく皈陣の砌　本願寺證如上人へ爲謝礼可参上よし満し此由かくとのたまひケれば　御懇の御饗應加之騎馬十六騎を以紀伊國日高郡小松原の城まて贈り届けられ候事　直光公喜悦不斜　彼是謝礼として

天文元年（一五三二年）壬辰日高郡吉原浦へ一宇御建立

一御堂　表九間　裏拾壱間
屋鋪　東西三拾八間　南北四十貳間
堀上口　八間　北西之方二在

築地　上口四間　右同所

右之御堂湯川政岸公より乞建立　本願寺へ寄進し　證如上人御感ニ付御存生の御眞影御裏ニ御筆の御名判ニて當寺常住物ニ被下置候　御次し代　顯如上人より右之次第御尋節に委細申上　右之眞影差上候得者（は）　是亦御感則御添書ニ御筆之御名判　日高御坊常住物と被遊被下候也　右御堂の本尊は在田郡星ノ尾と申所在之を政岸公此寺へ被奉居下御丈ケ三尺の立像阿弥陀仏也　佛作之由　其以前度々及ひ度々盗人とも奉取之也候得共　様々奇端成事共有之に付　無餘儀本所に返候由　如斯不思議御佛故政岸より此御堂へ御居在之候如　寺僧（閣）には則政岸の姪智了賢を政岸公御差圖にて御堂勤也　其後大功秀吉公　湯川へ馬事被向候刻　大乱にて所々之財宝　寺社焼亡候砌　薗村住岩崎圓尊自分の財宝妻子を不顧　右の（のがれ）本尊并ニ眞影寺僧ニ断り奉負之山賊海賊等の逢難（ニ）室（キ）之郡へ主道　乱静て後本所ニ皈り候得共　本堂は焼（五）被亡候ニ（八六年）付か之仮堂へ奉入候也

天正十四戌（一五九五年）年郡中之門徒右之御堂を薗村へ移し　少シキ御堂ヲ立其後文禄四年未　浅野紀伊守様御内佐（竹欠カ？）伊賀守殿より薗村島村の荒地被申請　是も少々之御堂建　次第〳〵　在家も立荒地寺内領六町六反五畝六歩也　此高七十八石八（一六三〇年）斗壱合之所　永代諸役御免也　其後右之御堂及大破候ニ付　寛永七年御再興

此御堂表十間　裏十間半　屋鋪東西三十二間　南北四十五間也
築地高サ八尺　上口壹間　鐘突堂壹間半四方也

一、此御堂西圓寺と寺号御免被成候儀は　良如上人之御代　本願寺の御影堂御建立の刻槻材木　此山中にて御調候節御堂僧眞了精々入克肝煎申と被仰准如上人之御眞影壹幅御免被下候(は)其爲御礼眞了乞上洛候　依て良如上人御直々御意被遊候者今度槻材木之儀ニ付精々入能肝煎御満足の旨　依て何ニても叶望可被下と御意被爲成候　其時八木藏人殿御取次　幸ひ眞了未夕寺号無之候ニ付　此度御免被遣候ハバ眞了難有可奉存と申上候付　其時西園寺と寺号(かこ)御免ヒ下候也

一、寛永十四年島原一揆之刻水主御用ニ付　竹元丹後殿より當所へも加子(かこ)御掛被成候　其時(かと)之庄屋年寄申ニは　當所は先年より諸役御免之所にて御座候尓達而申上候共(は)　御承引無之ニ付不及是非右之通京本願寺へ申上候得候者　本願寺より御書被下候ニ付　若山へ差上候所　戸田金右衛門様より竹元丹後殿へ被仰渡候上にて　弥(いよいよ)日高御坊村之儀は先年より諸役御免ニ相(き)究り御役御免ニ相成候　然共差越して京都本願寺へ申断候

過料ニ庄屋三郎右衛門三十日籠者被仰候(一六七一年)　籠居ノコト

一、寛文十一年亥八月　伊豫行御用ニ加子十人竹元丹後殿より當

所へも御掛ヒ成候　其時庄屋年寄和歌山へ登り日高御村町之儀
ハ先年より諸役御免之旨　御断ヲ達申上候得者　丹後殿被仰
候二者　御坊町之儀者諸役御免居之儀二候得者爲役儀申付候
儀二ては無之候　御用二付當今御雇被成候　依て其加子壱人二
付飯米之外　一日二米三升づゝ被下候間　其通二相心得候様と
被仰候二付　随御意加子十人御用相勤申候　右之趣其時の郡
奉行深美六兵衛様　向笠新五右衛門様より大庄屋善左衛門方
へ御状参　此趣大庄屋より御坊村庄屋庄兵衛方へ書状参り　次
の庄屋新左衛門方二所持有之　其後右加子の賃米一日二付米
三升つゝ被下銘々へ相渡し候　以上
右條々先年以本紙書之改者也
爲末代如件

（一六三八年）
天和三年亥年極月

御堂老僧　祐賢 元禄四年寂
同西圓寺　秀賢 正徳三年寂
御坊庄屋　新左衛門
同年寄　三左右卫門

附箋
此由来写し二文言其外
不都合之処侭在之写方
當惑千万二候

同　孫右衛門
同　源右衛門
〆

乍恐御請奉申上候口上

一、當村諸役御免之儀候取調可奉申上候様仰聞奉畏早速相調見候処（は）別紙之通旧記ならで無御座候　尤諸役御免本紙證書之儀者　亥年の手形袋ニ有（あり）ト計記し有之候得共　見當不申候付　前々村役人及老人承り合候所　本紙紛失之儀聞傳へ有之との儀ニ御座候　乍併いつ頃とも一切相分り付不申儀ニ御座候　此段宜敷御取扱被成下候様奉願上候　依之御請奉申上候　已上

辛未三月十八日
文化八年

御坊村肝煎　藤　藏
同　所　重左衛門
同　庄屋　左右衛門

大橋　兵治郎殿

村誌調

古昔調　壹冊

舊小区ノ此調　壹冊

十三年度調　壹冊

併簿

村誌ノ例

某村日高郡第六大区三小区御坊村

薗浦嶋
領村領

彊域

艮ヨリ未迄嶋村領井溝ヲ境トス
東ヨリ
坤乾艮迄蘭浦領田畑道路ヲ境トス

幅員

東西　百七十五間
南北　二百十間余

管轄沿革（ウツリカハルコト）

徳川氏以来遷指ナシ

里程

若山縣ヨリ拾壱里余
小松原駅ヨリ十八丁余
嶋村中央ヨリ
蘭浦中央ヨリ

地勢

東西南北蘭浦領嶋村領田畑ヲ帯ブ
運輸ノ便利
村端山川ナク薪類貧

地味　茶色

田地ハ水難アリ　畑地者（は）サヱン（菜園）ヲ作ス

税地

田　七反拾貳歩

畑　三町五反五畝廿七歩

屋敷　六町九反三畝拾二歩

総計　拾壱町壱反九畝廿壱歩

飛地

中央ヨリ西ノ方字古寺内

田　弐畝六歩

畑　壱反六畝弐歩

屋敷六反廿歩

総計　七反八畝廿八歩

宅地

東町　本願寺掛所表門前

中町　同?所　裏門前

西町　薗村西ノ方

古寺内飛地也

貢租*　地租*　地代金壱万七円四十銭六厘

*租（租）　行書体は此字になる

此地租金*　三百円廿弐銭弐厘

酒税

車税諸税

戸数

人数

牝牛　四頭

舟車

川　井溝本村字東筋東ニ添嶋村同地悪水ヲ瀉下ス

幅壹丈・長百四十間薗浦領ヘ流レ入

道路　街道三等道路ニ属ス　北方薗浦境ヨリ南方薗浦境ニ至ル

長三町三十間・幅壹丈

掲示場　中央標ヨリ艮ノ方壹町四十間ニ至ル

社　本村社ナシ薗浦八幡ノ社ヲ氏神トス
祭日旧八月十五日

寺　西本願寺掛所　東町三十三間・南北五十一間・面積三十四間　眞宗年号干支不分明　本願寺證如上人開基
二ノ小区吉原浦ヘ創建ス　中興開基僧名可入

学校　藤薗小学校本願寺掛所
玄関・講場・座敷・臺所トヲ用フ

教院　本願寺掛所本堂ヲ用フ

郵便局　郵便取扱所ナシ
但シ通運所東町ニアリ

物産　絽糸・蝋燭・晒葛・醤油・造酒

民業　男　農業・雑業・商業

御坊の昔の町の名と橋の名

大字御坊の地図でずっと古いのはないが、徳川末期のものがある。これによると、東町・中町・西町・横町・勘太夫小路・中街道の町名はかはってゐないが、東町の下中町と通ずる処は、南横丁（ヨコテフ）・之につゞいて西町に通ずるものは、只の横丁・東町の上、今栄町といふ処は北裕（當時家は一～二軒位あったに過ぎぬ）・中町より古寺内に通ずる今岬通りとなってゐる処は古寺内通り、御堂裏門の処より天性寺前に通ずる今松原通といふが裏門通り、之につゞいて西町より新薗に通ずるのは新薗通り。橋の名では東町の北・島出口と島田中町にかゝる橋が石橋、御坊西町より老松座前を經て御坊の飛地古寺内にかゝる橋が冷水橋、これは今もかはらぬが今名の忘られている橋で、東町・上庚申町（元裕？といった）より島字竹馬へかゝっているのは吐砂川橋。御堂表門の処より出店に通ずる、出店通りの下川に架けられてゐるのは源太橋。それから東町の南端薗に通ずる今巽橋といふのは、紋右衛門橋（我等子供の時は「ぬしも橋」で通ってゐた）。茶免橋と一般にいはれているが、今の御薗橋が中橋。西町の下新町の間にかゝっているのは、御薗橋となっている。今茶免橋を御薗橋といふのは復旧に當って、誤って名づけたのか、故意に名を移したのか、但しは昔の名をしらずしてつけたものか・・・・。茶免橋を御薗橋とつけたのは、茶免以南の熊野街道がついて、（今も新道といふ）のことであると思ふ。

芝口　常楠

御坊村

日高郡第六大区三小区ニ属シ古ハ薗浦島村ノ領地タリシカ天正十四戌年京都西本願寺懸所創建セシヨリ人家モ漸次ニ開　文禄四年御坊村ノ一村トナル

疆域　東ハ同郡島村ト悪水川筋ヲ以テ界トシ西南北ハ薗浦ト耕地ヲ限リ界トス

幅員

管轄沿革　慶長六年浅野紀伊守幸長同但馬守長晟　元和五年以後徳川大納言頼宣卿被領

里程　東ハ同郡嶋村ニ接シ西南北ハ薗浦ニ隣ス　日高川口ニ近ク運輸ニ便利ト雖モ地産ノ品物其小ニシテ米穀・薪炭・其他ノ諸品高價ナリ

地勢

地味　其色□黒其質中質・稲粱二相應シ畑ハ綿作ニ適ス　用水ハ六郷川筋ノ餘水ニテ水利不自由

税地　田　七反拾弐歩　畑　三町五反五畝廿七歩
宅地六町九反三畝十二歩
総計　拾壱町壱反九畝廿一歩

飛地　當地西ノ方薗浦ノ内ニアリ
田　弐畝六歩　畑壱反六畝弐歩　宅地六反二十歩
総計　七反八畝廿八歩

字地　一番字東筋
二番字東中筋
三番字西中筋
四番字西筋
五番字古寺内

貢祖　明治八年ノ分
地租　米五十二石三斗三升八合

船税　十円廿六銭
荷車税　一円
酒税　七十八円五十七銭
焼酎味醂税　三円五十七銭八厘
醤油税　五円四十七銭一厘
賦金

戸数

士族一戸トアルハ宇泥田？谷富之進也

本籍　二百六十四戸　士族　一戸　平民　二百六十三戸
寺　壱戸　眞宗本願寺懸所
総計　二百六十五戸

人数

男　五百六十八口　士族　平民　五百六十七口　一口　女　五百六十四口
総計　千百三十二口　他出寄留　男　九口　女　八口

牛馬

舟車

日本形船五艘　五百石未満二百石以上　三艘

荷車　二輪

二百石未満　壱艘
五十石以上
五十石未満　壱艘
荷船

川

川ナシ

用水溝　第六大区日高郡島村領字田中悪水川ヨリ田二入　田七反拾弐歩ヲ作ス

道路

熊野往還ノ枝道ニシテ三等道路ニ属　村ノ北島村・薗浦界ヨリ南薗浦堺ニ至ル、東町・中町・西町ノ三道アリ

東町　長二百二十間　巾二間
中町　長二百十間　巾二間
西町　長二百九間　巾二間

平地ニシテ市店軒ヲ並ベ中町ヨリ西ヘ折レ西郷村々ヱノ往来支道アリ

掲示場　本村北口ヨリ
南口ヨリ
西口ヨリ

社

村社無之藺浦小竹神社ヲ氏神トス

寺

京都西本願寺懸所東西三十二間・南北平均三十七間・面積二反九畝十八歩　村ノ中央ニアリ天文元壬辰年ノ開基ニテ湯川民部少輔直光日高郡吉原浦ヘ建立セシナリ　其ノ後焼亡ニ因テ天正十四戌年同郡藺浦ノ領地ヘ移轉シ、文禄四年淺野紀伊守殿ヨリ藺浦島村領ノ内ヲ給リ、次第在家モ立、御坊ノ村名唱ルト云々。現今ノ建前ハ寛永七年ノ再興ナリ

學校

公立藤藺学校　村ノ中央本願寺懸所境内ニアリ御坊村・藺浦・島村・田井村・名屋浦五ヶ村ノ共立ニシテ

生徒　男　　女

物産

麦二十石　綿千五百斤　蝋燭二千五百九十三箱

晒葛三千九百四十九箱　酒二百五十五石

酢六十一石三斗　焼酎九石五斗　味淋　三石八斗

民業

御坊村

日高郡第六大区三小区ニ属シ古ハ薗浦・島村領地タリシガ天文元壬辰之歳(コノ年号マギラハシ)ト註アリ同郡吉原浦ニ創建セル京都西本願寺懸所ヲ移シテ薗浦ノ椿原ニ置キ再ビ本土ニ遷セシヨリ以テ人家モ稍々繁褥シ始テ御坊村ノ称アリ

印

天正十四年戌ニ吉原浦ニアリシ本願寺懸所ヲ薗浦ノ椿原ニ遷置シ文禄四年未再ビ本地ニ遷セラレヨリ人家稍繁褥シ始メテ御坊ノ称アリ

彊域　東ハ同郡島村ト悪水川筋ヲ以テ界トシ、西南北ハ薗浦ト耕地ヲ限リ界トス

幅員　東西　百七十五間
南北　二百十間

管轄沿革　慶長六年浅野紀伊守幸長但馬守長晟　元和五年以後徳川大納言頼宣卿被領

寺　眞宗西京本願寺懸所、東西三十三(ママ)間・南北平均三十

七間・面積二反九畝十八歩、村ノ中央ニアリ初メ天文元年壬辰、仝郡丸山ノ城主湯川直光之ヲ隣里吉原浦ニ創建セリ（直光其嫡子直春入道祐存ナルモノヲ以テ住僧トシ継イテ賢藝至ルマデ血統相承ルモノ六世後遂ニ留守居職ヲ置ク）丸山ノ豊臣氏ニ攻侵セラル、ニ至リ吉原ノ堂宇モ亦兵燹ニ罹リ、祐存直光ニ随ヒ熊野ニ奔ル。于時天正十三年乙酉也、十四年丙戌假堂ヲ薗浦ノ椿原ニ設ケ（現今古寺内ノ遺称アル所以ナリ）居ルコト十年、文禄四年乙未ニ及ンデ薗浦・島村ノ端倪相接スル荒蕪地ヲ浅野紀伊守幸長ニ請フ。幸長諾シ、即チ佐武ニ來テ宅ヲ担セシム。固テ遷焉寛永七年寅午改テ建築シ、文政五年三年復御改メ築ク

御坊村誌

十三年六月二十九日縣廳ト郡廳ト
ヨニ冊上申ス　内一冊ハ郡長ヨリ
仮返ス　一冊ハ更ニ認差出ス

御坊邨

紀伊國日高郡和歌山県第六大区三小区
本村ノ地舊本郡藺浦島村ノ荒廃地ニシテ村落田圃モ有ラザリシガ文祿四年西本願寺ノ道場ヲ茲ニ移スヨリ稍々民人来リ家シ一村ヲ成シ御坊邨ト云後歳月ヲ遂テ戸口増殖シ今日ノ殷實ヲナスト云
其地ハ乃チ藺荘ナリ

疆域 東ハ本郡島村ト其南藺浦ト六箇井溝ヲ界トシ西南北皆藺浦耕地ニ接シ

幅員 東西弐町五十七間　南北三町三十間

管轄沿革 本郡藺浦ニ仝ジ

里程 和歌山廳ヨリ南方十三里六町廿壱間四尺京橋元標ニヨル
○元標ヨリ十二里三十三町
四隣中央標距離　北島村へ六町十六間　藺浦ヱ三町四十四間　中央標ハ東中筋ニアリ

地勢　地位平坦東南日高川海口ニ近シ　東島村・西薗浦ヲ連テ街巷四道　戸屋稠衆居民商賈ニ服シ太ダ農ノ事トセズ　本村第一殷富ノ地　百貨湊集ノ處ナリ運輸至便然レドモ土宜産出ナク米穀・薪炭價甚貴シ

地味　其色淡黒・其質美ナリ　稲粱ニ宜シク木綿ニ宜シ灌漑堰水ノ羨餘ヲ仰グ又足ル

税地　田七段七畝拾八歩　畑三町九段弐畝十五歩
宅地七町六段四畝九歩
総計十二町三段四畝拾二歩

飛地　古寺内　村ノ西薗浦ノ内ニアリ　田弐畝十三歩・畑壱反七畝廿壱歩・宅地六反六畝廿七歩アリ
字ヲ古寺内ト云フ

宅地　東筋　一番村ノ東嶋村界ニアリ東西五十間・南北三町四十間
田畑宅地アリ　一番地ヨリ五十九番地マデ
東中筋二番村ノ中央　字東筋ノ西ニアリ（東西？）五十六間

日高別院八百番地

南北三町三十間　畑・宅地アリ

六十番地ヨリ百四十五番地マデ

西中筋三番東中筋ノ西ニアリ東西三十八間・南北三町三十間

畑・宅地アリ　百四十二番地ヨリ二百廿一番地マデ

西筋　四番村ノ西　西中筋ノ西ナリ　東西二十間・南北三町三

十間　田畑・宅地アリ

二百廿二番地ヨリ二百六十七番地迄

古寺内五番村ノ西　薗浦ノ内ニアリ飛地ナリ　東西一町十間

南北三十間　田畑・宅地アリ

二百六十八番地ヨリ二百九十番地迄

浄國寺二七二番地

貢租

地税　金三百圓弐拾弐錢弐厘　明治八年改正租額

○旧租額　明治七年米五十二石三斗三升八合

船税　金拾圓弐拾六錢

酒類税金八拾壱圓拾四錢八厘

荷車税金壱圓

賦金　ナシ

総計　三百九十三円六十三錢

戸數

本籍弐百六十四戸　士族一戸　平民二百六十三戸　寺壱戸眞宗

総計　二百六十五戸

人數　男五百六十八口　士族一口　平民五百六十七口　女五百六十四口　平民

総計　千百三十二口　他出寄留　男九口　女八口

牛　牝牛　四頭

舟車　國式船五艘　五百石未満二百石以上　三艘　二百石未満五十石以上　壱艘　五十石未満荷船　壱艘

荷車　壱輛

溝　六郷井溝　村ノ北島村界ヨリ来リ村ノ東境ヲ南流シテ蘭浦堺二至ル（欠字）

附箋二

二町三十一間　幅壱間三尺五寸
六町三十九間　巾弐間

道路　御坊往来　里道三等　此線本郡萩原村ノ小名東光寺ニテ熊野街道ヲ西ニ岐レ荊木村・富安村・丸山村・小松原村

・財部村・薗浦ノ地ヲ經テ本村ノ北ニ来リ。市街ヲ南行シ又薗浦界ニ至ハ、夫ヨリ同浦ヲ經テ日高川堤上ニ出デ熊野街道ニ合ス。本村地域ヲ通ズルコト、長二百十間・巾二間。西旁商店檐ヲ列ス、熊野ニ往ク者本道ノ千回ナルヲ以テ路ヲ茲ニ取ル

山路往来 里道三等此線三條

一ハ本村ヨリ起リ東方島村ヲ經テ日高川ヲ渡リ、岩内村・熊野村・和佐村・江川村ヲ經テ印南原村ニ至ル。

一ハ村ノ東北方島村・吉田村ヲ經テ土生村枝郷藤井ニ至リ分テ西線トナリ

一ハ日高川ヲ渡リ野口村ニ至リ、一ハ土生村ノ枝郷小熊ニ及ブ

皆印南原ニ会ス、共ニ山地荘ニ至ル通路ナリ。此路村民米・鹽・魚類ヲ運ビ行商ヲナス彼是必經ノ路脉ナリ。村域ヲ通ズル長（以下欠文）

村路 本村ノ地旁近諸村路線四通ス。茲ニ彼是ノ距離ヲ擧グ。東北方島村界マデ一町四十五間、山路往来ナリ。西方薗浦界マデ一町十三間。是仝村中央標ニ至ル路線ナリ。西南方濱村ニ至ル十二町四十九間、名屋浦ニ至十町三十六間、以下皆各村中央標マデノ距離ナリ。東北方吉田村

二至ル山路路線ノ中央マデ、十六町七間三尺・西北方田井二至ル十四町十三間三尺

掲示場　東中筋二アリ

社　本村氏神八薗浦小竹八幡社是也

寺　本願寺懸所　東西三十三間六分・南北四十九間四分・面積六段三畝九歩　東中筋二アリ。初メ天文元年壬辰本郡亀山城主湯川直光一寺ヲ吉原浦ニ創建ス。入道祐存ヲ住僧トス。子孫相承ルコト六世後留守居僧ヲ置ク。創立ノ後天正ノ兵燹ニ堂宇焼亡セシヲ、仝十四年丙戌假堂ヲ薗浦椿原ニ設ク。今ノ古寺内ト云地是ナリ。其後薗浦・島村接界ノ荒廃地ヲ乞テ遂ニ今地ニ移ス。浅野幸長ノ臣佐武伊賀守、此役ヲ董スト云。今時住職ナリ留守居僧ヲ置テ寺務ヲ（管）理ス。本堂・庫裡・經藏・四足門・藥醫門・鐘楼・太鼓楼・漱水所・部屋・長屋・雑庫・茶所アリ、域内巨大ノ一葉樹アリ・囲一丈四尺廻リ遠野之ヲ識スベシ。此寺土俗呼テ御坊ト云

學校　藤薗小学校　公立小学校本願寺懸所境内ニアリ、御坊村・薗浦・島村・田井村・名屋浦共立ナリ　生徒男百三十九人・女五十人

警察署御坊村分署　田邊警察署ニ属ス、東中筋にアリ民有地ヲ以テ之ニ充ツ　第六大区二三四小区保管ス

會議所村会議所　本願寺懸所内ニアリ村事務所トス　○区会議所　村ノ北方島村ニアリ

會社　通通会社　東筋ニアリ　商民土谷善助業ヲ営ム

産物

米　十四石　質中
麥　三十五石　質美
棉花　千五百斤　質美
粟　五石　質中
清酒　二百五十五石　質美
燒酎　九石五斗　質美
味淋酒　三石八斗　質美
酢　六十一石三斗　質美
醤油　百二十五石　質美
晒葛　六千三百十八〆四百目　質美　東京ヘ輸送ス
蝋燭　一万四千五百二十〆　質美　東京ヘ輸送ス
絹糸　二万二千六百斤　質美大阪ヘ輸送ス

総價金　一万六千二百一円四十六錢八厘

販賣金ヲ得ル　一万五千八百七十七円九十六錢八厘

民業

男農七戸　　醸戸九戸
製葛四戸　　製蝋六戸
商家
雑商共　百五十五戸　旅舎六戸
傭力雑役或ハ山輿二行商スルモノ二十四人
職工　三十三戸
女農ヲナスモノ　五人
紹糸ヲ製スルモノ　四十二人
縫職　三十二人
蝋燭真巻工　五十六人

村誌取調帳

名屋浦

名屋浦

紀伊國日高郡和歌山縣第六大区三小区　古時ヨリ本郡ニ属ス

疆域　東ハ本郡北塩屋浦枝郷天田村ト日高川流ヲ以テ界トシ、西ハ仝郡濱ノ瀬浦ト西川筋・西側耕地ヲ界トシ、南ハ沿海、北ハ同郡薗浦ト往来道ヲ以テ界トス

幅員　東西凡三町四拾間・南北凡十町

管轄沿革　元和五年巳未ヨリ徳川頼宣之ヲ領シ、十四世茂承ヘ至テ封土ヲ封遷シ、明治二年己巳六月和歌山藩トナリ、明治四年辛未七月和歌山縣トナリ、同八年十一月更ニ和歌山縣ヲ置カレ、現ニソノ管轄タリ

里程　和歌山縣廳ヨリ南方十三里十七町三十四間

京橋元標ニヨル　○京橋元標ヨリ十三里七町五十三間

四隣中央距離

東南　北塩屋浦ヲ十五町三十七間

西　濱ノ瀬浦ヲ八町〇〇三尺

北　薗浦ヲ　五町五十三間

仝　　御坊村ヱ　七町三十間

地勢　北ハ本郡藺浦ニ接シ東西日高川西川ヲ帯村域ニ沿て流ル南ハ海ニ臨ミ東南ノ角川口ニシテ多少ノ船舶出入ス（スミ）其中間ノ地皆平坦ナリ　高燥七分卑湿三分ニ居ル　地勢運輸ニ便ナレド薪炭ニ乏シク價特ニ高シ

地味　其色浅黒其質砂土ニシテ稲粱ニ宜シカラズ　用水ハ他ノ漏水ヲ以稲蓄ス　以テ水利便ナラズ時ニ旱ニ苦シム　又川沿低地ニシテ水害多シ

税地　田拾町九段弐畝廿七歩
畑三町九反弐畝十歩
宅地七反弐畝弐歩
総計　拾五町五反七畝九歩

飛地　ナシ

字地

元船附神社ノアリシハ古屋敷ナリ

一番字　古屋敷

本村ノ東北ノ隅薗浦ヘノ支道ヨリ南ヘ連ル東西五十間南北百六十間　田畑・宅地・社地ナリ

一番地ヨリ二十四番地マデ

久保里ハ今ノ天田橋ノアル処

二番字　久保里

字古屋敷ヨリ南ヘ連ル東西六十間・南北四十八間　田地アリ　二十五番地ヨリ三十六番地マデ

三番字　船付

字久保里ヨリ西ヘ連ル東西八十間・南北八十間　田地アリ　三十七番地ヨリ六十三番地マデ

四番字　溝口

字船付ヨリ南ヘ連ル東西百二十間・南北二十八間　田地アリ　六十四番地ヨリ八十二番地マデ

五番字　柳田

字溝口ヨリ南ヘ連ル東西百二十間・南北百二十間　田畑・宅地アリ

八十三番地ヨリ百三十一番地マデ

六番字　伏木

字柳田ヨリ西南ヘ連ル東西六十間・南北五十六間　田畑・宅地アリ

百三十二番地ヨリ百五十五番地マデ

七番字

字伏木ヨリ西南ヘ連ル東西三十六間・南北百二十

濱之瀬　間　田畑アリ
百五十六番地ヨリ百七十四番地マデ
八番字　字濱之瀬ヨリ東ハ連ル東西五十六間・南北百二十
川　端　間　田畑アリ
百七十五番地ヨリ百九十一番地マデ
九番字　字川端ヨリ東南ハ連ル東西百八十間・南北四十間
狐川原　田・端・宅地アリ
百九十二番地ヨリ二百三十二番地マデ
番外地　本村ヨリ東南ノ方、旧來ノ船渡場。今ノ架橋トナ
五軒家　ル辺ヲ総テ五軒家ト称呼ス
五軒家ハ狐川原ノ地番中ニ含マル

貢祖

地租金弐百拾壹円四十錢四厘　明治八年改正税額

○旧祖額　明治七年未納　廿五石七斗四升四合

船税金壹円四十六錢

総計弐百拾弐円八十六錢四厘

戸数

本籍四十六戸　士族　一戸

平民四十五戸

社　壱戸　村社　船着神社壱座

寺　壱戸　眞宗源行寺

総計四十八戸　但明治九年一月一日調ニヨル

人数　男百五十四口　士族　一口　平民百五十三口　女百六十三戸　士族　三人　平民百六十人

総計三百十七口　他出寄留　男二人・女一人　本籍外入寄留　男三人・女一人

但　明治九年一月一日調ニヨル

牛馬　牝牛二頭　馬ナシ

舟車　日本形船三艘　二百石未満　一艘　五十石未満・荷舟　二艘

山　ナシ

川　日高川　二等川ニ属ス、最深キ処九尺・巾平均四丁廿間筏通ス。堤防アリ、上流薗浦界ヨリ来リ、南ヘ流レ此川

長拾丁。出水漲溢ノ時満川盈充シ、深サ壱丈五尺ヨリ二丈二至ル。僅ニ堤防ヲ以テ人家・田圃ノ水害ヲ防禦ス。水源ハ第六大区日高郡龍神村ヨリ出テ、数里・数ヶ村ヲ経テ、當浦伏木川口ヨリ海ニ入ル。

架橋　當浦領字五軒家ヨリ北塩屋浦枝郷天田村領ニ架シテ日高川流ニアリ、木製ニシテ橋長六十二間・巾一間熊野往還ニ属ス

西川　三等川ニ属ス當浦領北ヨリ南ヘ流レ、川長六丁四十間・巾三十間、常水巾十七間・深五尺水勢緩ニシテ濁底泥。汐満鹹シ出水ノ時ハ、川巾三十間・深サ一丈余ニ満ツ。僅ニ堤防ヲ以テ、人家・田園ノ水害ヲ防グ。水源第六大区日高郡原谷浦鹿ヶ瀬山ノ麓ヨリ出テ数ヶ村ヲ過ギ、當浦領ニ至リ日高川ニ会シ、伏木川口ヨリ海ニ入

用水溝　第六大区日高郡島村領字田中悪水川ヨリ起シ、仝郡薗浦領ヲ経當浦ニ至リ。渠長五丁十三間・巾四尺ニ派ニ分テ田ニ入　田十町五反二畝二十七歩ノ用水ニ供ス

森林

原野　ナシ

牧場　ナシ

礦山　ナシ

湖沼　ナシ

道路　熊野往還　二等道路ニ属ス。當浦ノ東薗浦界ヨリ北塩屋浦支郷天田村ニ至ル、長六町三十一間・巾一間二尺・道敷九間六尺。名屋浦掃除丁場杭ヨリ西ヘ折レ本浦・薗浦ヘノ支道アリ

堤塘　大川除堤　日高川ニ沿ヒ村ノ東薗浦境ヨリ當浦領字五軒家ニ至ル、堤長四町廿間・馬踏一間二尺・堤敷九間六尺、修繕費用官ニ属ス

西川堤　西川ニ沿ヒ村ノ西薗浦境ヨリ當浦字水戸ニ至ル。堤長一町四十八間・馬踏五尺堤敷三間、修繕費用八民

二属ス

波除堤　當浦ノ南字水戸ヨリ字五軒家ニ至ル、堤長三町廿六間、馬踏四尺五寸、堤敷五間、修繕費用八民二属ス。水門一ヶ所修繕費官二属ス

港　ナシ

出埼　ナシ

嶋　ナシ

暗礁　ナシ

燈明臺　ナシ

瀧　ナシ

温泉　ナシ

冷泉　ナシ

陵墓　ナシ

社

船着大神　村社之地東西四十一間・南北十五間・面積四畝廿四歩、村ノ東字古屋敷ニアリ、紀大臣道成公ヲ祭ル。式外祭日九月四日

寺

源行寺　東西廿一間・南北廿間・面積一反一畝廿五歩、眞宗西本願寺ノ末派タリ。村ノ北薗浦領仮地ニアリ。文明年間蓮如上人熊野御参詣ノ砌、當村湯川左工門次郎ナル者弟子トナリ開基創建ス

學校

三協學校　公立小学校薗浦・御坊村・名屋浦合併御坊村ニ設立ス

會議所

村会議所　本村ノ北、薗浦字東下埜湯川敬(カ)巖私有地ヲ以テ之ニ充ツ

○区會議ハ本郡島村字龍田ニアリ

病院　ナシ

教院　ナシ

郵便局ナシ

宿駅　ナシ

物産　米八十八石　麥三拾石　大豆四石　粟六石
大根三百〆目　綿千斤　燒酎五石　鷄~~十六羽~~

民業　男女トモ農事ヲ業トス。農間ニ男ハ雜商及日雇稼、女ハ紡績ヲ業トス

蘭浦誌

第六大区三小区

薗浦

紀伊國日高郡和歌山縣第六大六三小区

本村古代ヨリ本郡ニ属シ、又宝郷ニ管シ御薗荘トナル

中古薗浦及枝郷御坊・濱之瀬ヲ併テ、三ヶ邨ヲ御薗荘トス

彊域

東ハ本郡御坊村・島村ト耕地ト耕地ヲ界トス、西ハ田井村耕地ヲ界トス、南ハ名屋浦ト耕地又道ヲ限リ界トス、北ハ財部村ト溝ヲ以界トス

幅員

東西五町四十間・南北十四町十間

管轄沿革

御薗荘往古小竹ト云三神（應神天皇 神功皇后 武内大臣）此村ニ入セ坐ヒシヨリシヲソニ轉通シテ薗トシ御薗ト云　古ハ王家ノ御領ナルガ中古熊野・新宮（早玉神社）ノ神領トナル　同社建暦二年古文書ニ曰「四至東限泉水際・西限田井船津出井・南限甘田亀石富島・北限蒼柱九寸大際」トアリ

○○

魚屋（ナヤ）・御坊・濱之瀬及田井之内南方ノ地共薗村ニ

シテ中古魚屋（當今名屋）田井ノ二村獨立シ御坊ハ文禄四年濱之瀬ハ明治三年枝村トナル　後湯川氏政春・直光・直春ノ領地タリ　天正年間豊臣氏本國ヲ平定シ、擧テ其弟秀長ニ與フ　慶長五年淺野氏幸長長晟ノ領トナリ　元和五年徳川氏頼宣封ヲ本國ニ移シ子孫世襲ス　國改革新徳川氏版圖ヲ還納シ、明治二年和歌山藩ヲ置キ、幾モナク藩ヲ改メ縣トナシ殿君廃シ四年十一月、更ニ縣ヲ置キ之ヲ管ス今其所轄タリ

里程

和歌山縣廳ヨリ南方十三里十一町廿一間四尺　京橋元標ニヨル　○元標より十三里弐町

四隣中央標距離

北財部村へ十八町三十四間・東御坊村へ三丁四十五間

西田井村へ拾町廿九間・南名屋浦へ五町五十三間

濱ノ瀬浦へ九町〇五間　東島村へ十一町弐間

中央標ハ字西新薗ニアリ

地勢

地位平坦北ハ本郡財部村ニ接ス　耕地溝洫?通達ス　東御坊村ヨリ續クト雖ドモ、耕地及悪水吐川ヲ隔テ本村新町

二至ル　人家僅二連檐ス　村内ノ人家多クハ四方二散在ス
東南二方ッテ日高川ヲ帯ビ、西南二方ッテ西川ヲ帯ビ、南
名屋浦二接シ、海口二近シ　運輸二便ナレドモ炭薪塩不産
其價最貴シ

地味

其色淡黒・其質二生アリ　半ハ塩土半ハ砂土ニシテ稲粱二
適セズ　砂土ノ方ハ麺麦二相應ス　六郷ノ水路ヨリ田二灌
グ水利便ナシドモ底(低?)地ニシテ時ニ水災ノ難アリ　又秋季ニ
至リ根本ヨリ腐朽シ年々立枯ノ患アリ　土人之ヲカレシホ
ト云

税地

田　六拾四町九反九畝六歩
畑　拾弐町五反六畝拾弐歩
宅地七町三反二畝四歩
総計　八十四町八段七畝廿二歩

宅地

一番
北釜井戸　村ノ北財部村界二アリ、東西六十間・南北五十
四間　田アリ　一番地ヨリ十六(?)番地マデ

二番　北釜井戸ヨリ東ヘ連リ、東西百九間・南北五十六間
田アリ　十三番地ヨリ三十番地マデ
西郡
三番　西郡ヨリ南ヘ連リ、東西百十間・南北百二間
田アリ　三十一番地ヨリ四十五番地マデ
佃
四番　佃ヨリ西ヘ連リ、東西六十間・南北百二間
田アリ　四十六番地ヨリ六十七番地マデ
南釜井戸
五番　南釜井戸ヨリ東ヘ連リ、東西五十八間・南北五十二間
田アリ　六十八番地ヨリ七十五番地マデ
宮ノ後
六番　宮ノ後ヨリ東ヘ連リ、東西五十六間・南北七十四間
田畑・宅地アリ
黒粕
七番　七十六番地ヨリ八十九番地マデ
黒粕ヨリ東ヘ連リ、東西三十七間・南北百廿二間
田アリ　九十番地ヨリ九十九番地マデ
野田
八番　野田ヨリ東ヘ連リ、東西七十四間・南北百十五間
田アリ　百番地ヨリ百廿一番地マデ
野間
九番　野間ヨリ東ヘ連リ、東西六十間・南北九十二間
田アリ　百廿二番地ヨリ百卅五番地マデ
コケ
十番　コケヨリ南ヘ連リ、東西百五十六間・南北百三十間
田アリ　百卅六番地ヨリ百五十六番地マデ
穴原
十一番　穴原ヨリ南ヘ連ル東西七十間・南北九十八間

紀小竹田アリ　百五十七番地ヨリ百七十八番地迄

十二番　紀小竹ヨリ南ヘ連ル東西八十五間・南北四十八間

芝ノ前畑・宅地アリ　百七十九番地ヨリ百九十八番地マデ

十三番　芝ノ前ヨリ西ヘ連ル東西五十九間・南北八十八間

露ノ裏田畑・宅地アリ

百九十九番地ヨリ二百卅一番地マデ

十四番　露ノ裏ヨリ北ヘ連ル東西百間・南北四十六間

桃ノ木田アリ　二百三十二番地ヨリ二百四十六番地マデ

十五番　桃ノ木ヨリ北ヘ連ル東西百二間・南北五十三間

圓津田アリ　二百四十七番地ヨリ二百五十七番地マデ

十六番　圓津ヨリ北ヘ連ル東西百十間・南北四十八間

荒毛田アリ　二百五十八番地ヨリ二百七十番地マデ

十七番　荒毛ヨリ北ヘ連ル東西百十二間・南北五十三間

直田（ジキデン）田アリ　二百七十一番地ヨリ二百八十六番地マデ

十八番　直田ヨリ西ヘ連ル東西五十七間・南北七十九間

大町田アリ　二百八十七番地ヨリ二百九十九番地マデ

十九番　大町ヨリ西ヘ連ル東西六十間・南北百二間

宮ノ前田・社地アリ　三百番地ヨリ三百十五番地迄

二十番　宮ノ前ヨリ南西ノ隅ニ連ル東西五十九間・南北百二間

佐渡田アリ　三百十六番地ヨリ三百三十一番地マデ

廿一番　佐渡ヨリ南ヘ連ル東西六十三間・南北九十六間
名戸田　田アリ　三百卅三番地ヨリ三百四十八番地マデ
廿二番　名戸田ヨリ東ヘ連ル東西五十九間・南北九十六間
松原田　田アリ　三百四十九番地ヨリ三百六十四番地迄

松原田ハ今御坊高等学校ノアルトコロ
三五〇～三六四番地・三四九番地モ最近加ハル

廿三番　松原田ヨリ東ヘ連ル東西五十九間・南北九十二間
白見田　田アリ　三百六十五番地ヨリ三百八十二番地マデ
廿四番　白見田ヨリ南ヘ連ル東西三十四間・南北百七間
大垣内　田地・宅地アリ
　三百八十三番地ヨリ三百九十六番地マデ
廿五番　大垣内ヨリ西ヘ連ル東西百〇二間・南北七十八間
上薗田　田畑・宅地アリ
　三百九十七番地ヨリ四百四十七番地迄
廿六番　上薗田ヨリ西ヘ連ル東西百五十間・南北四十七間
下薗田　田畑・宅地アリ
　四百四十九番地ヨリ四百八十番地マデ

四百四十八番地所管？
四百四十九番地ハ道路ノ西西川堤ニアル製材所ノ番地

廿七番　下薗田ヨリ南ヘ連ル東西九十四間・南北七十八間
東新薗　田畑・宅地アリ

四百八十一番地ヨリ五百十二番地マデ
東新薗ヨリ西ヘ連ル東西百廿間・南北七十七間
田畑・宅地アリ
五百十三番地ヨリ五百六十三番地迄

廿八番
西新薗

西新薗ヨリ南ヘ連ル東西七十間・南北百三十間
田畑アリ　五百六十四番地ヨリ五百八十四番地マデ

廿九番
中島

中島ヨリ南ヘ連ル東西七十四間・南北八十六間
田畑アリ　五百八十五番地ヨリ六百〇五番地マデ

三十番
洲崎

洲崎ヨリ南ヘ連ル東西四十七間・南北百三十五間
田畑・宅地アリ

三十一番
西下野

六百〇六番地ヨリ六百四十一番地マデ
西下野ヨリ北ヘ連ル東西百八十八間・南北八十三間
田畑・宅地アリ
六百四十二番地ヨリ七百五十七番地迄

三十二番
新町

新町ヨリ南ヘ連ル東西七十四間・南北八十八間
田畑・宅地アリ
七百五十九番地ヨリ八百十六番地マデ
東下野ヨリ東ヘ連ル東西五十七間・南北百廿二間

六四二番地八神社
七八六番地源行寺

三十三番
東下野

三十四番

茶免　田畑・宅地アリ
八百十七番地ヨリ八百五十三番地マデ
三十五番　茶免ヨリ東ヘ連ル東西百十間・南北百五十五間
萬寿沢　田畑・宅地アリ
八百五十四番地ヨリ八百八十三番地迄
三十六番　萬寿沢ヨリ東ヘ連ル東西八十三間・南北百十二間
千代崎　田畑・宅地アリ
八百八十四番地ヨリ九百廿二番地マデ
三十七番　千代崎ヨリ北ヘ連ル東西百四十四間南北百三十六間
毛中　田畑・宅地アリ
九百二十三番地ヨリ九百八十一番地マデ
三十八番　毛中ヨリ南ヘ連ル東西（欠字）・南北百八十九間
御影　田畑アリ　九百八十二番地ヨリ九百九十一番地マデ

貢祖

地租　金弐千八十四円八十一銭五厘　明治八年改正祖額
旧祖額明治七年米四百八十七石四斗九升七合
酒類税金六十四円二十銭
舟税　金三円八十三銭
博労税金五円五十銭

猟銃税　壱円
荷車税　五拾銭
賦金　ナシ
総計　金弐千百五十九円九十四銭五厘
旧祖額　米四百八十七石四斗九升七合
改正し　金弐千百五十九円九十四銭五厘

戸数

本籍三百九戸　士族五戸　平民三百〇四戸
社　二戸　村社　小竹神社　一座
小社　一座
寺　二戸　眞宗
総計　三百十三戸　但明治九年一月一日調ニヨル

人数

男七百四口　士族　五口
平民　六百九十九口
女七百十二口　士族　六人
平民七百〇六人
総計　千四百十六口　他出寄留　男十六人女十九人
本籍外入寄留　男十六人女八人
但明治九年一月一日調ニヨル

牛　牝牛四十壱頭　但シ明治九年一月一日調ニヨル

舟車　國式形　六艘　二百石未満五十石以上　二艘
五十石以下　四艘

荷車　壱輛

但シ明治九年一月一日調ニヨル

川

日高川　幹川最深處五尺・浅處四尺、廣處七町・狹處六町二十間　常水幅壱町水清シテ流急ナリ　舟筏通ジ堤防アリ　上流島村界ヨリ来リ西南ヘ流レ名屋浦界ニ至ル　其間長三町三十二間　中央ヲ堺トシ對岸ハ岩内村ニ属ス　此水漲溢スレバ満川ニ充盈シ水勢最急ナリ　深サ壱丈八尺ニ及ブ　本村屢水害患

西川　三等川ニ属ス最深処四尺・浅處三尺、廣處十二間・狹処八間　常水幅九間　濁水ニシテ流緩也　舟筏通ズ堤防アリ　上流田井村ヨリ来リ、東南ヘ流レ田井村界ニ至リ同村飛地半周シテ、又本村内東南ヘ流レ、名屋浦界ニ至ル。総長三町四十四間中央ヲ界トス對岸ハ田井村・

吉原浦・濱之瀬浦ニ属ス。最出水ニ深サ二間余ニ及ビ急流ス

六郷井悪水溝　村ノ東島村界ヨリ来リ西流シ、字中島リヨ南ヘ合流シテ、本村内字洲崎ヨリ名屋浦界ニ入、長六町廿九間・巾一間四尺。此溝ヨリ起シ字中島・洲崎・西下野ノ用水トス

六郷井溝　一ハ村ノ東北財部村界ヨリ来リ数流トナリ本村ノ田畝ヲ灌養シ、田井村界ニ至ル。幹溝長五町五十六間・巾四尺。一ハ島村界ヨリ来リ名屋浦界ニ至ル。幹溝長三町五十間・巾五尺数流ニ分ッテ田ヲ灌グ

道路

熊野往還　二等道路ニ属ス　此線本村東ノ方島村界ヨリ南行シテ名屋浦ニ至ル　本村地域ヲ通ルコト長三町五十五間三尺・幅壱間弐尺

村路　本村ノ近傍諸村路線四通ス　茲ニ彼是ノ距離ヲ擧グ

西北田井村マデ□□町□間・南名屋浦ヘ□□町□間・東御坊村ヘ□□町□間・西南濱之瀬浦ヘ□□町□間是各村中央標マデノ距離ナリ

掲示場　字新町ニアリ本村東口ヨリ四町四十間・北口ヨリ五町六間・南口ヨリ二町五十五間

堤塘

日高川除堤　日高川ニ沿ヒ村ノ西南字洲崎ヨリ名屋浦界ニ至ル　長三町三十二間・高三間五分・馬踏壱間・堤八間　修繕費ハ官ニ属ス

西川除堤　西川ニ沿ヒ村ノ西南字洲崎ヨリ名屋浦界ニ至ル　長三町四十四間・高一間四分・馬踏五尺・堤敷三間・修繕費ハ民ニ属ス

社

小竹神社　村社之地東西四十九間四分・南北二十六間六分　面積千三百拾一坪　村ノ西南ニアリ往古應神天皇・神功宮・武内大臣此宮ニ入セ給フ　後應神天皇・左神・神功宮右小竹大神ヲ祭ル　武内大臣ハ其末社ニアリ社記ニ曰ク　古ハ薗荘三分ノ一ヲ以テ社領トス　元亀・天正ノ乱ニ社領ハ兵火ニ罹リ終ニ烏有ニ帰ス　即其社領モ悉ク没収セラル　式外祭日三月五日・八月十五日　域内松木本及樹木アリ　薗浦・御坊村・濱之瀬浦ノ氏神トス

小竹元宮　小社社地東西五間六分・南北十三間六分・面

積七十六坪　村ノ西北ニアリ當社ハ小竹宮ノ舊地ニシテ
祭ル所　小竹大神・應神天皇・神宮后宮ナリ
式外祭日三月五日　域間松木　本アリ

寺

淨國寺　東西　間・南北　間・面積　坪
眞宗西派京都本願寺ノ末派タリ　村ノ北字大垣内ニアリ
文明三辛卯年僧法賢開基創立ナリ

天性寺　東西二十四間・南北十八間・面積三百三十六坪
眞派京都本願寺ノ末派ナリ　村ノ東字東新薗ニアリ
天文十五丙午年開基創立ス

眞宗西派京都興正寺末寺、海士郡和歌浦性應寺ニテ村居地ニアリヤ文明五年開基創立ス
原稿ニ右ノ如クアリシヲ附箋ニテ下ノ如訂正セリ

學校

三協学校　御坊村ニ設立ス之ニ属ス

会議所

村会議所　村ノ北淨國寺ニアリ、村事務所トス
○**区会議所**ハ本郡島村ニアリ

物産

米　九百六十石　質　大悪
麦　六百石　質　中
空豆　六石　質　美
菜種　五石　質　中
二千百〆目
四千八百斤
千二百斤

大根 質 中　棉花 質 中　砂糖 質 中

清酒 百九十一石四斗 質 美　酢 二十五石 質 美　醤油 三百二十六石 質 美

蝋燭 千百二十〆目 質 美

総價　七千九百四十八円七十三錢四厘

販賣金ヲ收ル　貳千百貳円五錢四厘

民業

男　農　八十六戸　釀戸　六戸　製蝋　二戸

雜商　四十戸　雜工　百七十三戸　旅舍　二戸

女　農ヲナスモノ　百四十人

紹糸ヲ製スルモノ　百十五人

本書原本は御坊町役場に藏する所なり
本書は芝口常楠氏所蔵の寫本より寫す
昭和廿五年四月三十日寫了

清水　長一郎

活字化を終わって

『御坊由来記』は『日高御坊由来』等と同内容であるが、かなり簡素に纏められている。毛筆で筆写しているため私では判読不明の文字が多く、折角写本するには不完全の為、厚かましく由良町の小出潔氏に助けていただいた。茲に改めて御礼申し上げます

平成十七（二〇〇五）年四月一日

清水章博

使用ワープロソフト JUSTSYSTEM『一太郎 2005』for Windows Me